

歴史を語り継ぎ、研究することで!

●歴史、文化、そして自然を堪能した旅、その4!
 今宵も「久喜の春を楽しむ旅」の続きを綴ってまいります。



【現在も残っている酒蔵】



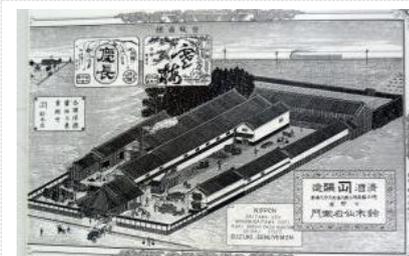
【現在の寒梅酒造店舗、看板が残る】



【昔の面影を遺す敷地内の稲荷神社】



【2011年まであった旧店舗】



【明治25年に銅版画に描かれた寒梅酒造醸造所】

久喜駅西口を降りて約3分、新井病院の裏に「寒梅酒造」があります。

◆寒梅酒造

寒梅酒造は創業1821年(文政4年)、米や水に恵まれた関東平野のほぼ中央に位置する久喜にて酒造りを始める。「寒梅(かんばい)」は漢詩の一説「魁春開雪中」(はるにさきがけてせっちゅうにひらく)に由来する。雪中に咲く寒梅は



【寒梅 HP より】

万花の魁(サキガケ)をなすもので先取りであり先駆者である。また、毅然として清楚、意志が強く忍耐強い気品に満ちた花・・・。

* *

かつて広大な敷地の中で酒造りをしていた寒梅酒造も、現在は敷地の半分以上がマンションになり、小さな店舗と酒蔵が残るだけです。しかもお休みでした。

試飲を楽しみにしていたので残念です。駅に近いだけに維持は難しいのでしょうか。そのマンション駐車場を抜けると、途中、フェンス越しに敷地内に置かれた稲荷神社が見られました。抜けた先には、土屋小児病院がありました。その通りを南西に向かうと道の両側に旧家がありました。

手前左手が久喜麗和会の前会長の「榎本善司氏宅」。蔵と塀がかつての面影を遺したままに修復中されていました。道路の先右手にあるのが、久喜町長、初代市長を務められた「榎本善兵衛氏宅」

(明治6(1873)年築)でした。善兵衛氏の夫人は、与謝野晶子の最後の弟子であった歌人の浜梨花枝さん、歌誌『青遠』を発行したそうです。白漆喰が黒く塗られているのは、戦争中防火管制の時、砲的にならないように黒く塗ったとのことでした。また、近世1065点、近現代2061点、合計3123点ある榎本家文書は歴史的な価値が高いようです。

どこの街でも、こうした個人所有の歴史的建造物を残してもらうことが課題です。その意味でも、歴史を語り継ぐ「観光ボランティア」や「中島敦の会」のように深く研究する方々が大切ですね。<つづく>



【久喜麗和会前会長の榎本善司氏宅】



【同上】



【久喜町長・初代市長を務められた榎本善兵衛家】



【同上】



【榎本家文書の中の「遷善館規則」】